

## 第212回都市計画審議会（令和4年10月28日開催）でのご意見とその対応（案）

番号	意見	対応方針	対応内容
1	ウクライナ問題についても、どこかで触れたほうが良いのではないかと。	今後の参考	課題別戦略やエリア戦略の中ではなく、今回改定の背景などの中で触れていくことを検討します。
2	都が10年ぶりに被害想定を見直した。何か対応しないのか？	今後の参考	被害想定が変わっても、まちづくりの方向性は変わらないと考えます。
3	安全・安心の中に、核シェルターという視点は必要ではないか	今後の参考	次回改定の際に改めて検討します。
4	デジタル化を進めると高齢者が取り残されてしまうので、対応が必要。	今後の参考	デジタル化を進めることに対する高齢者の方へのフォローアップは、高齢者を対象としたスマートフォン体験会の実施など都の事業などと連携しながら取り組んでいます。
5	単身高齢者や単身者の住まいが枯渇している。福祉の分野で対応してもらいたい。	今後の参考	頂いたご意見については、担当の部署に伝えます。
6	P27のグラフを都市マスの都市の骨格に変更してはどうか	修正対応	P27のグラフはP26の各戦略に対応しているため、現行のままとします。都市マスタープランで示す都市の骨格の図については、P26に追加することを検討します。
7	P27のグラフは、みどりの実態調査の緑被率のグラフでもよいのではないかと	今後の参考	P27に掲載しているグラフは、達成度や進捗を確認するための指標ではなく、各戦略に対して参考となるものを掲載しています。そのため、「戦略 f 持続的に発展する都市の推進」については、二酸化炭素排出量の推移を掲載することが適切であると考えます。
8	図書館にテレワーク空間や子どもたちの居場所づくりを検討するという、アフターコロナの暮らし方の対応をかけないか？	既に対応済み	P32に感染症の拡大時にも対応した、公共空間づくりについて記載しています。なお、子どもたちの居場所づくりについては、感染症の流行に関わらず必要な施策であり、児童館、学童クラブ、放課後子どもひろばなどの取組を進めています。
9	緑被率も必要だが、緑視率も大切では？	既に対応済み	区は、緑被率だけではなく、緑視率も重要と考えています。緑視率という言葉は使用していませんが、緑視率の向上につながる屋上緑化、壁面緑化、接道部の緑化の誘導について記載しています。
10	また、緑化は中小企業では難しい。大企業が率先して推進してもらいたい。	既に対応済み	区の緑化計画書制度では、計画規模等に応じた緑化を求めているため、大規模な計画に対してより多くの緑化をするように指導しています。

番号	意見	対応方針	対応内容
11	地球温暖化は気候変動対策に置き換えたほうが良い	今後の参考	<p>国は平成10(1998)年に「地球温暖化対策推進法」を成立し、地球温暖化対策として2050年カーボンニュートラル、自治体のゼロカーボンシティ宣言の実現などといった環境施策を進めています。気候変動については、平成30(2018)年に「気候変動適応法」が成立し、気候変動に適応するための取組みが進められています。</p> <p>現在、区が検討している「環境基本計画」の改定では、「地球温暖化対策」の中に「気候変動適応計画」を入れているため、地球温暖化対策を気候変動とすると、区の施策の体系との整合が取れなくなってしまいます。また、気候変動だと、適応するための対策（熱中症対策など）を記載していくことになり、区が進めているゼロカーボンシティにつながらなくなります。そのため、現在の記載のとおりとします。また、都は、気候変動適応法に基づく「地域気候変動適応計画」を令和4年3月に策定しています。</p>
12	グリーンインフラは、みどりだけではないという認識を持った方が良い。例えば透水性舗装なども要素である。	修正対応	<p>・P21 3.豪雨対策の推進 ●取組み の上から5つ目の・  「・緑化の推進や雨水を保水・浸透させる<b>レインガーデンの整備</b>などグリーンインフラを活用した、雨水流出抑制対策を進めます。」赤字部分を修正します。  ・「グリーンインフラ」用語解説文について、「～水辺空間等により構成されます。」赤字部分を追記します。</p>
13	安全安心で住みやすいまち、明るく歩きやすい街が良い。滞留してしまふ広場よりも、動きがある空間が良い。屋上や壁面緑化による有機的なまちが、居心地がよい。	既に対応済み	ご指摘の通りだと考えております。それぞれのまちの実態に応じたまちづくりを進めていきます。
14	安全・安心・豊か・持続的という4つの目的がどうあてはまるのかと考えると各エリアを検討すべきだと思う。	今後の参考	今後の参考とさせていただきます。
15	P51の写真のキャプションは、「新宿区広域避難場所」と入れたほうが良い。	修正対応	「広域避難場所である明治神宮外苑地区における避難上有効な空地の例」とします。
16	P52②の書き方が良くない。みどりの創出は課題ではない。	既に対応済み	前回の部会後の打ち合わせで、①では神宮外苑地区のことを記載し、②では地域全体のことを記載するということになりました。そのため、本エリア全体においてみどりの保全・創出が必要だということを言うために記載しています。
17	P55③m「立体的・重層的な」は削除すべき。	修正対応	修正漏れだったので、削除します。
18	外苑の整備が行われることで排出されるCO2のことなど環境への影響を記載した方が良い	既に対応済み	個別の整備計画に関するCO <sub>2</sub> の排出に関して記載はしませんが、P34のとおり、「ゼロカーボンシティ新宿の実現」を重点的な取組に位置付け、区民・事業者・行政がそれぞれの立場で選択し、地球温暖化対策に取り組むこととしています。
19	神宮外苑について、名勝に指定することを課題として書けないか	今後の参考	個別の場所の名勝指定について、まちづくり戦略プランには記載しませんが、区内の他の地域資源も含め、緑地の保全に取り組んでいきます。

番号	意見	対応方針	対応内容
20	環状4号線や環状5号線がもうすぐ開通する。その都度、防災の観点からも検討する必要がある。	今後の参考	幹線道路が開通すると防災性は向上しますが、各敷地から開通した幹線道路に至る道路(安全な避難経路)の整備が必要です。そのため、細街路の拡幅や、沿道まちづくりについても引き続き検討する必要があると考えます。
21	タワーマンションが増えると、学校の教室や学童が足りなくなる。	既に対応済み	大規模な開発が想定されるエリアには、「子育て支援施設や帰宅困難者の待機スペース、備蓄倉庫など区の施策に応じた機能の誘致や設置の要請」という項目を入れており、学童については、こちらの記載により必要に応じて誘導していきます。
22	P96大久保通りは、「快適な」というよりも「安全な」歩行者空間の確保が必要。	修正対応	P95 2. ① f と、③ i の文章について「・～快適な歩行者空間の確保を図ります。」という表現を「・～ <b>安全で</b> 快適な歩行者空間の確保を図ります。」に修正します。
23	補助72号線の開通と桜美林大学の新キャンパスができたことで、人の流れが変わり課題も生まれると思う。高齢者の事故が増えないよう、引き続き安全対策を検討してもらいたい。	修正対応	P95 2. ① f と、③ i の文章について「・～快適な歩行者空間の確保を図ります。」という表現を「・～ <b>安全で</b> 快適な歩行者空間の確保を図ります。」に修正します。(同上)
24	高田馬場駅周辺エリアに、神田川の河川改修が遅れていることをかけないか？	既に対応済み	P21 3.豪雨対策の推進 ●取組み の1つ目の・に、未整備区間の河川整備について記載しています。
25	中井駅周辺に下落合駅周辺が追加されたが、下落合駅周辺の課題が出ていない。	修正対応	P108 3 主な課題に、「 <b>⑨西武新宿線と上落中通りの交差する踏切は、開かずの踏切であり、その周辺では渋滞が発生しているため対策が必要です。</b> 」と追記します。 また、P110 4 戦略 4-1 1②を「 <b>②歩行者ネットワーク・交通ネットワークの充実</b> 」と赤字部分を追記し、「 <b>e.開かずの踏切による渋滞対策のため、広域的な交通ネットワークについて検討します。</b> 」を追記します。
26	新宿駅がどのように変わるのか強くPRしてほしい	今後の参考	新宿グランドターミナルの再編に向け、区、東京都、鉄道事業者が協働して、関係団体へのインタビュー記事をインターネットで情報発信するとともに、街頭大型ビジョン等を活用した放映をするなど、広く周知に努めているところです。 今後もこれまでの活動に加えて、工事中の仮囲いを活用したポスターの掲示や誰もが参加できるイベントとの連携など、様々な機会を捉えて周知活動に取り組んでいきます。
27	シネシティ広場や歌舞伎町東急ミラノタワーをどのように活用整備していくのが、今後の歌舞伎町にとって重要である。	今後の参考	東急歌舞伎町タワーは令和5年4月に開業する予定です。 これを機に、TMOと連携した東急歌舞伎町タワーとシネシティ広場の一体的な活用により賑わいを創出していきます。
28	西早稲田駅周辺エリアは、住所としては大久保三丁目で地元の感覚と違う。名称を再検討できないか。	今後の参考	西早稲田駅周辺エリアは、平成23年に区内居住者や権利者に意見募集を行い策定された「西早稲田駅周辺地区まちづくり構想」のエリア名を準用し、設定しました。
29	印刷業界の多い榎地区が、エリアに入っていない。縮小傾向にあるが、工場がまちと調和しながら残っていけると良いと思うので、今後準工業地域のエリアをどうしていくのかということも、考えてほしい。	今後の参考	今回追加したエリアは、地元のまちづくり活動が新たに始まったエリアです。榎地区の準工業地域のまちづくりについても、今後地元の動向を踏まえ検討していきます。